（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0772500393		
法人名	社会福祉法人 にしあいづ福祉会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	福島県耶麻郡西会津町登世島字田畑乙2042－60		
自己評価作成日	平成26年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 ﾁｬﾚﾝｼﾞﾋﾞﾙ2階
訪問調査日	平成26年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

出来る限り入所者との会話を重視し、外出デイ・ドライブ・散歩・日光浴等、外に出る機会を多く設ける事で、気分転換していただけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

木の質感を生かした建物であり、2居室の間にトイレを配置するなどゆとりのある生活環境である。職員の異動がほとんど無く、なじみの関係がつくりやすい。法人の機能を生かし、隣接する他の施設・事業所との連携協力が取れている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	にしあいづ福祉会の理念指針があり、毎日13時に当日勤務職員で唱和している。	職員は、毎日理念を唱和することをとおして、実践に結び付けようとしている。管理者は、新人などに対し、具体的な言葉がけや対応の方法をその都度伝えることで、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭り見学に出掛けたり、敬老会に出席して近所の方と会話したり、町内のお店に買い物に出掛けたりしている。また、法人で行う盆踊り大会にも地域の皆さんが大勢参加してくださっている。	地域の行事に参加する以外に、散歩や買い物時に積極的に声掛けし、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護職員初任者研修や、大学生の実習の受け入れを行い、認知症の方についての理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を設けている。頂いた意見や実施できそうなことは取り入れている。	運営推進会議での提案を受け、ボランティアの協力を得て、より多くの外出の場を提供すべく検討中である。またグループホーム裏の畑でとれたそばを食べに来ていただく事で、実際に利用者と交流していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議へ参加したり、運営推進会議へ参加して頂いただき、情報交換を行っている。	外部評価の結果を持参し意見交換を行ったり、建物の改修について相談が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員間で話し合いをしながら、身体拘束に当たらないケアの実施を工夫している。	安全を優先するあまり、以前は玄関に施錠をする等の行為があったが、今は利用者の状態を把握し、開錠できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修などで学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に本人及び家族の方へ十分に説明して理解されたか、わからない所はないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や面会時などに家族へ意見や要望などがないか確認している。	以前は、自宅に帰れた利用者の状況が変化し、一緒に食事をとる機会がなくなったという家族の訴えを受け、花見という行事を利用し、家族への参加を呼びかけ、一緒に食事を楽しんでもらう機会を提供した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催しており施設長、事務長、年に1回は理事長とも意見交換を行っている。	アンケートや個人面談の機会などを通して、意見を届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有資格者への考慮。年2回は健康診断の実施。職場の環境については、職員親睦会で季節ごとの趣向を凝らしたレクリエーションを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会への参加。職員会議での復命。3か月後の自己評価も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会へ加入しており、研修会へ積極的に参加して情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に本人や家族の方と話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で出来うる限りの要望には応えて行けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーとの情報交換の他に、他のサービス事業所からも情報を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない所は支援しながら、出来るところはご本人に行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り、ご本人の状況を報告し、場合によっては外出援助の依頼なども行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの床屋さんへ家族の支援で出かけたりしている。	近所の方が、散歩のついでに事業所に立ち寄ってくれたり、法人内の他施設での所用の際に、グループホームまで足を延ばしてほしいと声掛けすることで、来所者が増えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋にばかり居ないように声掛けして、居間で他の入所者の方と会話しながら過ごせるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出時であった時などには挨拶をして、今の状況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の立場に立った生活が送れるように、意向に反映させている。	落ち着かない時に、「どうして」と声をかけ話をしたり、帰りたいと希望する方に共感する気持ちを持って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時にお話を聴いたり、ケアマネージャーからの調書での把握に努めているが、ご本人との会話の中で知り得た情報、も申し送り時などに職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排便のコントロール、体調の変化の把握には十分努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態を踏まえた介護計画の作成に努めている。申し送り時職員で共有しており、ご家族へは、家族会や面会時の時に確認していただいている。	個別のケア状況を検討する場が取りにくくなっていた。個別記録の中に、ケアプランの実施状況に関する記載が不明瞭で、変化も見えにくい。対応に関しては、日々の申し送りで討議はできていた。	記録に何を残し、ケアプランと関連させるかを意識してはいかがか。時間を確保し、互いの持っている情報を統合する場(ケア会議等)を活用し、ケアプランを見直していっていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を記入しており、職員間の情報の共有や介護計画の見直しには活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては出来る限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊大会でのボランティアの受いれを行ったり、祭りやイベントなどに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望でかかりつけ医となっている。家族受診が基本ではあるが、困難な方に対しては職員の受診援助や、主治医の往診を頂いている。	職員が同行しない場合には、書面でホームでの生活状況を伝えている。また家族に主治医に伝えていただきたいことを話し、結果を口頭で確認している。	書面の中に、ホームから主治医に依頼したいことを記入する欄と、主治医からの返答を記入できる欄を設けるなど、書式の改善でさらに情報伝達がしやすくなるのではないか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護利用している。休診日でも相談に乗って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には職員が付き添い病院まで行き、身体状況を説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し同意を得ている。	書式はあるものの、内容がわかりにくい。実際には重度化や終末期の場面で再度話し合いの場を設け、互いの意見のすり合わせを行っている。	文書の表現を改め、実際に出来る事・出来ない事を明確にし、そのうえで同意をいただけるよう工夫をしてはいかがか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で消防署員を招き心肺蘇生法を年3回実施。職員は2年に1度は必ず受講する事となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人全体で夜間招集訓練及び通報訓練を消防署、地元消防団が参加して行っている。施設内でも月に1回避難誘導訓練及び通報訓練、消火訓練等を行っている。非常食は3日分備蓄している。	定期的に訓練を実施している。法人全体で防災マニュアルの見直しに取り組んでいる。	地域性に配慮し、降雪時の避難の仕方や、地震・水害対策などを想定した対応も検討していただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけに気を付けている。職員間が互いに注意して行っている。	一人ひとりに合わせた声掛けをしている。食事の席についても、声が大きい事で他者が非難されていると感じるため、職員と食べるなど考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業をしてもらう時などは押し付けにならないように、行っていただけるか確認して、気が進まない時には無理強いはしていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩などご本人が出たいときに付き添える様にして、無理に連れ戻すことはしていない。また、朝食時に出て来られない方に関しても、声掛けしながらご本人が起きて来られるまで待つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	かかりつけの美容院や床屋へ行ってもらっている。衣類も家族の了解を得て、ご本人に合った洋服等を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきを行っていただいたり、お稲荷さんを詰めて頂いたり職員と一緒に行っていただいている。食事も一緒に摂っている。	下ごしらえや食後の食器洗い・食器拭きを手伝ってもらっているが、職員サイドからの指示誘導が多い。本人の癖に配慮した食事の提供の仕方など、工夫は見られた。	さらに、献立を考えてもらったり、テーブルに出来上がった料理を置いて取り分けてもらうなど、より多くの利用者が参加できる場面を提供してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせて刻んだり、お粥の提供をしたり、小皿に小分けに食べて頂いたり食べやすいよう支援している。また、体重の変化にも気を配り食事量を調整したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいの声掛けや支援をしている。義歯使用者には夕食後ポリデント行い預かっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や状態によって個別にトイレ案内を行い排泄の失敗や汚染を防ぐ支援はしている。万が一失敗があっても、ご本人のプライドを傷つけ無いような声掛けに注意し、さりげなく支援出来るように努めている。	失敗する前にトイレ誘導する、トイレの外で、本人の視野に入らないよう工夫して待機するなど、本人が出来ることを大切にケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便を軟らかくする薬を調整したり、水分量をチェックしたりしている。また、お茶だけでなく、牛乳やヤクルト、カルピス等を活用し便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴と清拭を交代で行っているが、どうしても入りたくないと訴える入所者や今日どうしても入りたいと訴える入所者に関しては、入浴日以外でも柔軟に対応している。	一人ずつ、1日おきに入浴できる機会を提供するとともに、希望するときには、毎日でも入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないと訴える入所者は、無理にベッドに寝せるのではなく、職員と話をしたり、自分の居たい場所で過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに入れてすぐに見れるように管理している。症状の変化等については、訪問看護師や診療所の看護師へ相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きやおしぼり丸め洗濯物畳などご本人に出来るところは行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に遠足に出かけたり、月1回はご家族へ外出支援の依頼をして、外出に協力して頂いたりしている。また、玄関へ行かれた方に関しては、引き止めず一緒に外を歩くなどの支援をしている。	事業所専用の車両がないため、行事以外の外出は月に2～3回の散歩等にとどまっている。	デイサービスの送迎時間以外に、大規模店舗などに利用者と共に外出し、ボランティアの協力も得ながら、個別に過ごす時間を確保できるよう工夫してほしい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を預かり、外出時に自分のほしいお菓子を買ったり、アイスを食べたりしている。また、遠足の時にも、自分でほしい物を選んで買ったりできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと希望があれば、ご家族の方と直接話はしていただいている。入所者の中には、ご家族の都合でご本人との直接の電話は出来ない事もあるが、希望があれば支援できる様に体制づくりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花や鉢植えを置き季節感を出している。窓の外に咲いている花などを鑑賞できるようになっている。	共用空間にいても、調理中の気配が感じられた。和室に置かれた椅子も、互いの顔が見られる場所に配置されている。行事の写真や、利用者の作品が掲示され、生活感があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーで入所者同士話しをしたり、共有空間の中で1人になれる場所は難しいが、テーブルに座って本などを読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家族の写真を飾ったり、壁に貼ったりしている。また、置物など持ってきていただいている。	自分の作品や写真などを飾ったりしていた。ただ、備え付けの家具・ベッドのためか、居室が似たような雰囲気になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分からない入所者の方へは、ご本人お名前を書いて居室の入り口の目の高さの所に貼って分かるようにしている。トイレの表示も同じく貼っている。		